

事業概要シート

施策 0301 文化財の保護・活用・継承

《》の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計
 ※ 補正予算要求時は今回の補正予算額を除く。
 ※ 次年度予算要求時は次年度繰越額を除く。

事業名	歴史資料館管理運営事業	拡充	予算額	20,331 千円
				《 6,573 》千円
事業期間	昭和48年度 ~	財源内訳	国庫支出金	千円
根拠法令要綱等	博物館法 大村市歴史資料館条例		県支出金	千円
			地方債	千円
			その他	100 千円
			一般財源	20,231 千円

【事業の目的・概要・対象】

市民などに大村の歴史に関する歴史学習や研究の機会を提供する。
 大村の歴史に関する貴重な歴史資料を収集、保存・管理し、その重要性を市民に周知するため、さまざまな情報を発信する。
 大村の歴史の普及や研究のため、大村に関する歴史資料を寄贈、寄託、購入などの方法により体系的に収集し、これを保管・管理する。
 館では収集・整理した歴史資料を活用し、展示や講座等の教育普及活動を通じて地域の歴史の情報発信する。

資料収集保存	歴史資料の調査・収集	適正な保存管理
展示	所蔵資料や他館資料を活用した展示	
教育普及活動	資料の公開閲覧や、講座・講演会などによる教育普及活動	

歴史資料館の三本柱

- I 大村の歴史を、深く、楽しく伝える資料館
- II 市民の主体的な郷土学習を支援する資料館
- III 貴重な歴史資産を後世に継承する資料館

- 常設展示室と企画展示室の設置
- 講座等の実施と資料閲覧支援
- 保存環境の整備と収集の強化

歴史資料館に求められる機能

- ① 魅力ある展示と実物資料提供による公開機能
常設展・企画展の実施、実物資料の提供、デジタルデータの充実
- ② 教育普及活動と情報発信機能
ミライon図書館と連携し、地域学習の拠点となる。学校向け見学プログラムの作成、一般向けの講演会や体験講座の実施
- ③ 資料の収集、保存・管理機能
資料の保存・受入強化、民間所蔵の関係資料の把握・保存・相談対応
- ④ 大村の歴史や資料の調査・研究機能
資料や歴史の調査・研究、他地域との情報交換

【背景】

地方創生、郷土愛の醸成が求められる中、地域の歴史の保存継承、情報発信は重要となっている。
 旧市立史料館では、十分な情報発信を行えてこれなかったため、歴史資料館がオープンする機会に、資料の保存、展示、教育普及活動の強化に取り組んでいく必要がある。

担当課	教育委員会文化振興課（歴史資料館）	課長	今村 明
担当者	山下和秀	問合せ先	0957-48-5050

事業概要シート

【活動指標】

指標名			単位	H30 (実績)	R1 (計画)	R2 (計画)	R3 (計画)	R4 (計画)
①	開館日数	目標値	日	0	120	300	300	300
②		計画値						

【成果指標】

指標名			単位	H30 (実績)	R1 (計画)	R2 (計画)	R3 (計画)	R4 (計画)
①	入館者数	目標値	人	0	12000	20000	20000	20000
②		計画値						

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	合計
事業費	6,920	4,963	6,573	20,331	23,500	23,500	85,787
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他	14			100	1,000	1,000	2,114
一般財源	6,906	4,963	6,573	20,231	22,500	22,500	83,673
人件費	4,752	3,869	4,896	20,634	20,634	20,634	75,421
職員(人)	0.56人	0.46人	0.61人	2.70人	2.70人	2.70人	9.73人
時間外勤務(h)	340h	262h	230h	500h	500h	500h	2332h
嘱託員(人)							0.00人
フルコスト	11,672	8,832	11,469	40,965	44,134	44,134	161,208

妥当性 (市の関与)	市の施設の維持管理であり、市が行う必要がある。
有効性 (施策貢献度)	歴史資料館は、ミライon図書館とともに、地域学習の拠点であり、展示、教育普及活動は、文化財の保護や地域の歴史情報の発信・理解に極めて有効である。
効率性 (コスト)	令和元年の10月にオープンし、2年度が通年での本格稼働であるため、運営コストについては、見えない部分もある。

1次評価	館の本格活動としての初年度であり、拡充は必要である。
2次評価	1次評価の意見のとおり